

ケア文学のルーツ

『ゴブリン・マーケット』再読とクリスティナ・ロセッティの再評価

瀬名波 栄潤

はじめに

Christina Rossetti (1830-94) が 1862 年に発表した作品 “Goblin Market” は、女性同士のケアを讃える教訓的な詩である。当時の Rossetti の経験を基に創作され、女性特有の苦役が姉妹愛によって昇華される過程を描き、苦痛は問題解決という快樂への必須過程であると唱えている。その根拠となったのが、ヴィクトリア朝中期、精神的肉体的に虐待されもしくは実際に病に臥していた売春婦や貧困層の女性たち、いわゆる「堕ちた女性たち (Fallen Women)」の存在だった。これは当時大きな社会問題になり、キリスト教会は重要な役割を果たした。その中心となって活躍した人物が Florence Nightingale (1820-1910) である。Rossetti は Nightingale の信奉者で、Nightingale が活動していたキリスト教会と呼ばれる聖公会の教会の救護院で「堕ちた女性たち」に奉仕活動を行っていた。“Goblin Market” は、たくさんの小鬼たちが街にやってくる大衆でさまざまな果物を売りつける寓話詩であるためか、過小評価されてきた感がある。しかしケアと文学の関係が注目される今、ケアの重要性を正面から扱った作品としてあらためて評価すべき時期に来ている。

1. “Sisterhood”の誕生

ケア文学を「医療的な介護・看護（・治療）を描いた作品」と定義すると、英文学での始まりは Rossetti の “Goblin Market” だと言える。「ケア文学」という新たなジャンルの誕生によって、“Goblin Market” は、女性同士の「共助」つまり Sisterhood というケアとエンパワメントの重要性を説いた代表的作品と言える。

1850 年代から 60 年代にかけて、理想と現実の女性像のギャップに向き合った英国の第一波女性解放運動は、女性と男性の両方を巻き込んだ社会運動へと発展した。ロンドンの街角には「堕ちた女性たち」があふれ、その多くが性病にかかり、法律で不当な扱いを受けていた。男女同権論者たちの関心は、中産階級の妻たちだけでなく、「堕ちた女性」、とりわけ売春で生計を立てている貧困層の女性たちにも向けられた。批評家 Levine が言及しているように、「都市部では、売春と、それに付随する性病の発生率の増加に対する不安が大きく叫ばれた」(145) と言う。例えば、ロンドンだけでも、1850 年代と 1860 年代の売春婦の数は、調査によって異なるものの、5,500 人から 22 万人と推定された。「堕ちた女性たち」は政治経済の両面で蔑まれていた。

この頃、異なる階級の女性たちをつなぐ相互扶助の Sisterhood の概念が生まれる。女性を蔑視する社会に対する不満と幻滅が、より実践的で宗教的な運動へと発展したのだ。1843 年に設立された「アルバニー通りのキリスト教会」は、この運動を牽引する教会の一つであり、1849 年に St. Mary Magdalene Home、1850 年には All Saints 教会が設立された。批評家 D’Amico が指摘するように、「国教会女性更生協会 (Church Penitentiary Association) の運動は「堕ちていない女性たちが、堕ちた姉妹たちを救うことを成功の証」(77) と考えた。いわゆる、女性同士のケアの倫理の誕生だった。

Nightingale は、「ヴィクトリア朝時代に生まれた Sisterhood の概念を確立する上で不可欠な役割を果たす。1853 年彼女は、「苦境にある病める淑女のためのケア協会 (Institute for the Care of Sick Gentlewomen in Distressed Circumstances)」の会長になり、1854 年には「Devonport Sisterhood (1848 年創立) の修道女と共にクリミアに派遣される合同部隊の志願看護師の選考を任される。ケア協会は、「クリミア戦争開戦時に国民を熱狂させた愛国心」の中心であり、後に Nightingale が「クリミアの天使」と呼ばれるきっかけとなった。

同時期に、Nightingale は随筆 *Cassandra* (1852) を執筆している。「家庭生活の息苦しさ、退屈、家父長的な保護主義が、女性の夢や仕事、行動力を徐々に破壊していく」(Showalter 64) ことを私的に実感した Nightingale は、女性が行動の結果として経験する苦しみは、よりよい世界に到達するための必然的な道であると悟る。苦しむことさえ取り上げられた女性の麻痺した生活状況に、Nightingale は、相互扶助の重要性を説き、行動を起こすよう傍観者を奮い立たせた。

精神疾患を克服し、ケアラーとしての使命を自覚した Nightingale は 19 世紀中期の女性解放運動を先導する人物になった。*The Madwoman in the Attic* (1979) の著者 Gilbert と Gubar が、Nightingale は「ウルストンクラフトとウルフをつなぐ英国フェミニズムの主要テキスト」(“Florence Nightingale” 803) と認めたのは当然のことであろう。

2. ケア文学の誕生

Rossetti もまた、こうした政治的、宗教的な Sisterhood の運動に深く関わることになる。1843年にキリスト教会に通い始めた Rossetti は、家族で通っていた英国国教会に設立された Sisterhood という社会事業に参加する。批評家 Carpenter は、「英国国教会の Sisterhood は、女性をエンパワーし、その活動と意義を認めさせた」(418) と評価している。1854年、キリスト教会で奉仕していた Rossetti は、クリミア戦争の救護隊志願者を募集していた Nightingale に会う。Rossetti は、Nightingale から直接話を聞く機会が多く、Nightingale の代表作 *Cassandra* を既に読んでいたか、直接・間接的に聞いていた可能性が高いと思われる。*Cassandra* は1852年には完成していたからである。

Nightingale の信念を、Rossetti は奉仕と詩作に傾けた。実際、Rossetti の“Goblin Market”の主題は、Nightingale が唱える Sisterhood と驚くほど合致する。加えて、この詩の着想は、1855年に設立された St. Mary Magdalene Home という「墮ちた女性たち」の受け入れと更正、最終的に何らかの立派な職業に就くことを目的として創設された施設の、3名の入所者のエピソードに由来していると考えられる (Marsh 239)。Rossetti は、1859年初めにキリスト教会からこの更生施設に移り、住み込みで働き始めた。このエピソードを所長から直接聞いたか、年報で読んでいた可能性は十分にある。1859年から1860年にかけて“Goblin Market”を執筆していた Rossetti にとってインスピレーションなエピソードであったに違いない。

この詩の源泉は、これだけではないだろうが、批評家の関心がヴィクトリア朝の実態に向けられるとき、入所者の苦悩と Nightingale のケア思想は大きな影響を与えたと思われる。Rossetti が更生施設の「墮ちた女性たち」の更生に力を注いでいたときの実体験と、彼女の詩作活動全体に影響を与えた1850年代から60年代の女性解放運動を、“Goblin Market”は「ケア」を軸に表現しているのである。

むすび

「ケア」は、小川や Gilligan の唱える「共感」「思いやり」「関係性」によって構築されるものである。そして、そのケアの実践が積極的に受け入れられ、文学作品に反映されたのはヴィクトリア朝時代だ。ヴィクトリア朝文学の「ケアの倫理」は、時代の要請もあり、人々をエンパワメントする関係を生み出した。Nightingale は、その実践者だ。にもかかわらず彼女が文学史上ネグレクトされてきた背景には、やはり「ケア」という概念もネグレクトされてきたからだと思う。女性解放運動は、簡潔に言うと、女性の自我の目覚めの Sisterhood 運動だ。そのため、Nightingale の滅私奉公的な活動は、ある意味伝統的な理想の女性像であり、宗教的倫理や英国帝国主義思想になびいた印象を与える。しかし、現在の「ケア」の概念は、彼女に新たな光を当てていると言っても過言ではないだろう。そして、Rossetti の“Goblin Market”は、「ケア文学」という新たなジャンルの誕生を迎えた今、英国文学史初のケア文学作品の一つとして評価するに値するといえる。

主要参考文献

- 小川 公代. 『ケアの倫理とエンパワメント』. 東京: 講談社, 2021年.
- Carpenter, Mary Wilson. “‘Eat me, drink me, love me’: The Consumable Female Body in Christina Rossetti’s *Goblin Market*.” *VP* 29: 4 (1991): 415-34.
- D’Amico, Diane. “‘Equal Before God’: Christina Rossetti and the Fallen Women of Highgate Penitentiary.” *Gender and Discourse in Victorian Literature and Art*. Ed. Antony Harrison. Dekalb, IL: Northern Illinois UP, 1992. 67-83.
- Gilbert, Sandra and Susan Gubar. “Florence Nightingale.” *The Norton Anthology of Literature by Women: The Tradition in English*. Eds. Sandra M. Gilbert and Susan Gubar. New York: Norton, 1985.
- Gilligan, Carol. *In A Different Voice*. Cambridge: Harvard UP, 1982.
- Levine, Philippa. *Victorian Feminism 1850-1900*. Tallahassee: Florida State UP, 1987.
- Marsh, Jan. “Christina Rossetti’s Vocation: The Importance of *Goblin Market*” *Victorian Poetry*. 32 (1994).
- Nightingale, Florence. Ed. Mary Poovey. *Cassandra and Other Selections from Suggestions for Thought*. New York: New York UP, 1993.
- Rossetti, Christina. “Goblin Market,” *Victorian Poetry and Poetics*, ed. Walter E. Houghton and G. Houghton. Boston: Houghton, 1968.
- Showalter, Elaine. *The Female Malady: Women, Madness, and English Culture, 1830-1980*. New York: Penguin, 1985.